

新しい年を健やかに！

新年あけましておめでとうございます。

被保険者ならびにご家族の皆様におかれましては、除夜の鐘と共に昨年一年間の出来事を振り返り、さまざまな思いの中で大晦日を過ごされたことと思います。新しい年を迎え、この一年が皆様にとって健やかな良い年になりますことを心より祈っております。

さて、当健保組合を取り巻く情勢につきまして、既にご高承のとおり、高齢化の進行に伴い医療費の増加が続いております。国は、平成20年度より従来の老人保健制度をあらため、現行の高齢者医療制度をスタートさせましたが、この制度による健保財政の負担は、非常に大きいものがあり、8割を超える健保組合が赤字に陥っている一因となっています。現在、この高齢者医療制度の見直しが進められておりますが、更に健保組合へ負担を求める方向に向けられており、目が離せない状況です。一方、事業主の経営環境につきましては、昨年度上半期、政府の景気刺激策の効果などからようやく改善の兆しが見られるまでに回復してきました。しかしながら、下半期は、景気刺激策の終了や円高の進展などから、先行き不透明感が増してきており、併せて、事業主の業績に比例し減少している保険料収入の動向についても気にかかるところです。

こうした背景の下、当健保組合の平成22年度の実質収支は、昨年度に比し、決算見込みベースで赤字幅が約20億円に上るものと予想しており、中期的には更に悪化することが見込まれます。こうした状況を踏まえ、昨年11月に臨時の企画委員会を開催し、当健保組合を取り巻く情勢や中期収支予想等について説明すると共に今後も安定的に健保事業を推進して行くためには、保険料率の見直しは避けて通れないのではないかと説明をさせていただいたところです。今後、企画委員会での更なる審議を経て、理事会、組合会に諮らせていただくことになりますが、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

前記のとおり、当健保組合の収支状況は厳しい状況にありますが、昨年より実施している健康診断時の血液検査（ペプシノゲン・ピロリ菌検査）、胃内視鏡をはじめとするがん検診、ピロリ菌除菌、インフルエンザワクチン接種補助、国の定めた特定健診・指導、保健師による健康相談、健康指導などの保健事業につきましては、これまでどおり実施して行きたいと考えております。特に昨年から検診方法を変更した胃がん検診は、従来の胃エックス線検査に比べ、検査精度が高く、検診方法変更の効果が明らかとなっています。

結びに、被保険者ならびにご家族の皆さんにとって、健康保険は不可欠な医療保険制度であると共に健康支援を行う健保組合の役割は、今後、ますます重要性を増して来るものと考えております。引き続き知恵を出し合い、存在価値のある健保組合を目指し邁進して参りたいと考えておりますので今後とも皆様のご理解ご支援をお願いいたします。



理事長 永良 哉

▼ 健康保険組合全国大会の決議 ▼

平成22年11月16日に開催された健康保険組合連合会全国大会で、【皆保険維持に公費拡充待ったなし!】をスローガンに以下3点を組織の総意を持って決議された。

- ① 高齢者医療制度に対する公費投入の拡充と安定財源の確保
- ② 保険者機能が十分に発揮できる医療保険制度の確立
- ③ 健保組合方式維持のための財政支援の拡充・拡大